

I 次の記述が正しければ○、間違っていれば×を解答欄に記入しなさい。

アウトドアターゲットアーチェリー

問1 40標的設置した競技会で、審判を4人配置した。

(○)

競技規則第113条第5項

「アウトドアおよびインドアターゲットアーチェリーの競技会では、少なくとも10個の標的に1名の割合で審判員を任命する。(後略)」

補足説明

しかし、審判の絶対数が不足すると、この基準を満たそうとして、審判の交代要員がいなくなったり、更には、審判の資格を持った選手が競技参加をあきらめて、審判の任につくこともありえます。ある程度の競技キャリアのある方は、なるべく審判の資格を取ってくださるよう、お願いいたします。

問2 得点記録のとき、矢がバットレスに完全に埋没して標的から見えなかったので、同的の競技者全員の同意を得て、競技者の一人が後ろから押し戻して判定した。

(×)

競技規則第210条第13項

「バットレスに埋没し、標的面から見えない矢は、審判員によってのみ得点が判定される。」

問3 70mラウンドの試合において、ABC立ち－EFG立ち－矢取り、EFG立ち－ABC立ち－矢取りの行射で競技を進めた。

(×)

競技規則第201条第6項

可能ならば、1個の標的に3名の競技者が行射するのに必要な数の標的を設置する。競技場の都合で不可能な場合には、1個の標的に4名の競技者とし、これを限度とする。

補足説明

F立ちまで設ける場合は、ABC－矢取り、EFG－矢取りとするか、AB－CD矢取り、EF－AB矢取り、CD－EF矢取りとすべきでしょう。

インドアターゲットアーチェリー

問4 個人戦のインドアマッチラウンドで縦三つ目的を使用している場合、シュートオフを行うときには3つの標的のうち、どれを使用してもよい。

(×)

競技規則第309条第17項第2号

「(前略)またシュートオフは縦三つ目標的中段、または三角三つ目標的面の中央(上段)の標的を使用し、クォリフィケーションラウンドで使用した標的に従って行う。個人戦、団体戦は次により順位を決定する。(ヒット数、10点数、9点数を考慮しない)

個人戦のとき

(中略)

b 縦三つ目の場合、競技者は中段の中心をシュートする。三角三つ目の場合、上段の中心をシュートする。(後略)」

問5 行射した矢が跳ね返り、3mラインより手前に戻ってきた。しかし、その矢を射ったものとみなし、自分の行射時間中はそのままにして回収しなかった。替わりの矢を補充もしなかった。

(○)

競技規則第307条第4項

「次の矢を除き、どのような事情があっても再発射することはできない。

(1)跳ね返り矢でない限り、矢を落下させるか、または発射ミスをした場合、その矢の一部がシューティングラインと3mラインの中にある場合。

(第2号略)」

補足説明

跳ね返り矢は、どんなことがあっても、発射されたものと見なされます。ですので、この場合は、的中孔チェックを調べてこの矢の得点を決めることになります。(競技規則第309条第12項第1号及びこの問題第1集の問3を参照してください。)

問6 競技開始前、ウェイティングライン後方で人に向かって素引きしている競技者がいた。危険なので、人のいない方に向かって引くように注意した。

(×)

競技規則第310条第6項

「競技者は、シューティングライン上にある時以外は、矢がつかえているか否かにかかわらず弓を引いてはならず、インドアマッチラウンドの団体戦では、クィーバーから矢を取り出してはならない。(後略)」

フィールドアーチェリー

問7 3人のグループの中で競技会当日欠席した選手がいたが、主催者は2人のグループのまま競技をさせた。

(×)

競技規則第410条第1項

「競技者は、4名以下のグループで行射し、3名未満となってはならない。各グループは、可能な限り、同じ人数とする。」

補足説明

この場合、他の4人グループから1人連れてきて3人グループにするか、2人を別々の3人グループと一緒にさせて2つの4人グループにするかなどの、調整が必要です。

問8 スコアカードの素点の書き間違いをしたが、矢が抜き取られる前だったので、そのグループ全員の確認のサインをもらって訂正した。

(○)

競技規則第413条第1項

「(前略)矢が標的から抜かれる前に発見されたスコアカードの記載の間違ひは、その標的のすべての競技者が同意すれば訂正することができる。訂正はその標的のすべての競技者が確認し、スコアカードにサインしなければならない。」

補足説明

ターゲットと異なり、フィールドでは看的・矢取りのときに審判が必ずしもいるわけではないので、このような規定が設けられています。標的のそばに審判がいる場合はその審判に訂正を求めるべきでしょう。

問9 太陽が正面から照りつけている標的を行射するときに、同じグループの人にB5サイズのスコアボードで日差しをさえぎってもらった。

(○)

競技規則第412条第5項

逆光で見えない場合、グループの他のメンバーが最大A4サイズの日よけを準備し使用してもよい。

II アウトドアターゲットアーチェリーの競技会での後方にそれ矢を出して確実に回収ができていない場合、シューティングライン後方まで戻ったとき、それ矢を出した選手がすべきことは何か。また、それをしていないと、どんなペナルティーが科される可能性があるか。

すべきこと

〔 その都度最寄の審判にそれ矢の本数を申告する。 〕

ペナルティー

〔 その矢が見つかった時点でのエンドで最高点削除 〕

競技規則第210条(得点記録)

第9項「同一競技者が所有する矢が3本(場合によっては6本)、または同一チームの矢が9本を超えて標的またはシューティングライン内の地上で発見されたときには、得点の低い方から3本(場合によっては6本または9本)の矢の得点のみが記録される。さらに、競技者に割り当てられた標的以外の標的に的中した場合は0点(Mと記載)とする。」

競技者またはチームがこのことを繰り返した場合には、失格とされる。」

第14項第8号「シューティングライン又は標的の後方で発見された矢は、それが跳ね返り矢または貫通矢と申告された場合、標的にあたっていたか否かの判定は審判員の判断による。(後略)」

補足説明

審判に報告しなかった場合、それ矢を出したから、規定本数以上を射ったと見なされても仕方ありません。